

第44回日本てんかん学会 第1日目 10月14日(木)

岡山コンベンションセンター ママカリフォーラム								
	第1会場 3F コンベンションホール	第2会場 2F レセプションホール	第3会場 1F イベントホール東	第4会場 1F イベントホール西	第5会場 3F 301	第6会場 3F 301	第7会場 3F 302	第8会場 3F 302
8:00	開会挨拶							
9:00	シンポジウム1 「Cutting edge of neurodiagnostics for epilepsy」 座長：大坪 宏 小林勝弘	薬物治療1 01-1~5 伊予田邦昭	経過・予後1 01-20~24 小西 徹	実験てんかん1 01-46~50 丸 栄一	ポスター掲示			
10:00		薬物治療2 01-6~10 千葉 茂	経過・予後2 01-25~29 藤原建樹	実験てんかん2 01-51~55 岡本 基				
11:00		薬物治療3 01-11~15 山本 仁	経過・予後3 01-30~32 松浦雅人 経過・予後4 01-33~35 飛松省三	画像1 01-56~59 松田一己				
12:00		副作用 01-16~19 山田了士		サテライトセミナー2 「困った驚いたMEG 症例検討会 第4回」 座長：大坪 宏 中里信和	ポスター展示			
13:00	ランチョンセミナー1 てんかんにおける 精神医学的な 合併症状について	ランチョンセミナー2 てんかんと社会脳 一前頭葉機能の 発達とその障害	ランチョンセミナー3 Is the Success of Antiepileptic Treatment in Chronic Epilepsy Underestimated?	ランチョンセミナー4 てんかんが語る 脳内物語—けい れんする生命—				
14:00	会員総会							
15:00	JUHN AND MARY WADA 奨励賞受賞講演 座長：大塚 頌子				優秀ポスター賞のご案内 ・優秀ポスター賞の選考対象になるためには、 1日目(10月14日)の午前10時までに掲示 してください。 ・受賞者は、授賞式がございますので、懇親会 (10月14日19:00~)にご出席ください。			
16:00	教育講演 「発達てんかん学 と大田原症候群」 座長：大塚 頌子 演者：大田原俊輔	トランスレーショ ナルリサーチ セッション 座長：中里信和 岡田元宏	精神症状QOL 01-36~38 中山和彦	神経心理 01-60~64 松岡洋夫	薬物治療1 P1-1~4 浜野 晋一	症例報告1 P1-16~19 相原正男	外科治療1 P1-32~35 飯田幸治	遺伝 P1-48~52 若佐博人
17:00	シンポジウム2 「てんかん医療 における診療科 の連携」 座長：龜山茂樹 井上有史		発作症状1 01-39~42 山崎康子	画像2 01-65~69 渡辺英寿	薬物治療2 P1-5~8 泉 達郎	症例報告2 P1-20~23 赤松直樹	外科治療2 P1-36~39 橋詰清隆	発作症状2 P1-53~55 浜田文彦
18:00			発作症状2 01-43~45 伊藤ますみ	画像3 01-70~74 三原忠紘	薬物治療3 P1-9~12 前田 誠弘	症例報告3 P1-24~27 森本武彦	画像 P1-40~43 三嶋信啓	発作症状3 P1-56~58 浦島 晋
19:00					副作用 P1-13~15 三宅 達	症例報告4 P1-28~31 若井周治	実験てんかん1 P1-44~47 松本洋輔	脳波 脳磁図1 P1-59~62 奥村彰久
20:00	懇親会 ホテルグランヴィア岡山 4F フェニックス							
21:00								

第44回日本てんかん学会 第2日目 10月15日(金)

		岡山コンベンションセンター				ママカリフォーラム			
	第1会場 3F コンベン ションホール	第2会場 2F レセプ ションホール	第3会場 1F イベント ホール東	第4会場 1F イベント ホール西	第5会場 3F 301	第6会場 3F 301	第7会場 3F 302	第8会場 3F 302	
8:00		モーニングセミナー1 てんかんの原因 遺伝子同定・機能 解析による発症 機構の解明	モーニングセミナー2 迷走神経刺激療法 の本邦導入に あたって						
9:00	特別講演1 Abnormal cortical development patterns of functional organization and epileptogenesis 座長: 大家淳子 演者: Renzo Guerrini								
10:00	シンポジウム3 「てんかん症候 群に対する多面的 アプローチ」 座長: 池田昭夫 小国弘量	実験てんかん3 02-1~3 芹川忠夫	外科治療1 02-18~22 馬場啓至	症例1 02-43~47 高橋孝雄					
11:00		薬物治療4 02-4~8 地引逸竜	外科治療2 02-23~27 堀 智勝	症例2 02-48~52 橋本俊顕		ポスター展示			
12:00	ランチョンセミナー5 Can Magnetoencephalo- graphy help to choose optimal treatment for children with the Landau-Kleffner syndrome?	ランチョンセミナー6 新規抗てんかん 薬により薬物療法 は変わったか	ランチョンセミナー7 抗てんかん薬に よる精神症状	ランチョンセミナー8 Achieving Treatment Goal in Epilepsy: Focus on Levetiracetam					
13:00	特別講演2 Combining EEG and fMRI probing inside the brain non-invasively during epileptic discharges 座長: 伊達 勲 演者: Jean Gotman								
14:00		遺伝・基礎疾患 02-9~12 村島善也	画像4 02-28~31 加藤天美	薬物治療5 02-53~57 永井利三郎	薬物治療4 P2-1~4 山内秀雄	症例報告5 P2-17~20 萩野谷和裕	実験てんかん2 P2-33~37 柳田勇人	精神症状1 P2-45~47 松川謙豊	
15:00	ワークショップ1 「小児良性部分 てんかんの病態と 治療」 座長: 須貝研司 吉永治美	ワークショップ3 「てんかんモデル 動物の研究から 臨床応用へ」 座長: 廣瀬伸一 岡田元宏	外科治療3 02-32~35 大槻泰介	薬物治療6 02-58~62 森本 清	薬物治療5 P2-5~8 林 北見	症例報告6 P2-21~24 中川栄二	神経心理 P2-38~41 岡崎光俊	精神症状2 P2-48~51 久保田英幹	
16:00			外科治療4 02-36~39 川合謙介	脳波・脳磁図1 02-63~66 渡辺裕貴	経過予後1 P2-9~12 根来民子	症例報告7 P2-25~28 森 健治	薬理生化学 P2-42~44 平松 隆	脳波・脳磁図2 P2-52~54 野村 京	
17:00	ワークショップ2 「本音で語る現在 の臨床てんかん 学と精神科医の おかれた状況」 座長: 兼本浩祐 足立直人	病理・生理 02-13~17 新井信隆	外科治療5 02-40~42 星田 徹	脳波・脳磁図2 02-67~71 野沢胤美	経過予後2 P2-13~16 今井克美	症例報告8 P2-29~32 吉岡伸一		脳波・脳磁図3 P2-55~57 森田隆人	
18:00	閉会式								
19:00		サテライト シンポジウム 「てんかんの精神 症状・行動障害の 医療はどうあるべ きか」							
20:00									
21:00									



KITASATO Global Clinical Research Center
Kitasato University Research Center for Clinical Pharmacology
Special Lecture Program

~ Predictive modeling of clinical outcomes ~

Friday October 29th - Sunday October 31st, 2010
9:00 – 16:30 (including break)

Place : Room21 (A3 2nd floor), School of Allied Health Sciences,
Kitasato University

Address : Kitasato 1-15-1, Minami, Sagamihara, Kanagawa

Instructor

R.H.H. Groenwold, MD, PhD

Julius Center for Health Sciences and Primary Care
University Medical Center Utrecht



Course coordinator

Toshihiko Satoh, MD, MPH

Professor

Kitasato Clinical Research Center



Course description

Prognosis is a key concept in patient care. Prognostic research aims include: 1) the search for independent predictors/(bio)markers of the future course of patients, with or without treatment; and 2) to develop and validate multivariable combinations of these predictors in so-called prediction models/rules that can be used to estimate absolute outcome risks given the prognostic profile of the patient. In this course, the principles and methods (for both design and statistical analysis) of prognostic research will be discussed, including the prediction of treatment response.

Prerequisites

During the course, emphasis will be on modern methods to 1) find independent predictors of patient's prognosis and treatment responses; 2) construct multivariable prediction models both for short-term and long-term outcomes; and 3) assess the predictive performance of such predictors/models. For this, a background in epidemiology and/or statistics on an intermediate level is desired. The lecture is given in English. It is open to all with an interest in clinical, patient-oriented research.

Application and fee

Make an application for attendance (<http://www.kitasato-crc.org>) (The fixed number: 40)

The seminar fee is free.

For more info, contact us here: kcrcinfo@med.kitasato-u.ac.jp



日本臨床試験研究会 教育セミナー 第2回「GCP Basic Training セミナー」

(JSCTR-ESN.10-05)

2010年11月20日に実施予定の日本臨床試験研究会 GCP パスポート認定試験に対応した GCP Basic Training セミナーを開催いたします。GCP パスポート認定制度は、ICH-GCP、臨床研究に関する倫理指針および J-GCP を十分に理解した人材を育成することにより、わが国の臨床試験(治験を含む)および臨床研究の推進と質の向上を図ることを目的としています。GCP パスポート認定試験受験資格は、(1) GCP(臨床試験・臨床研究)関連業務の経験が1年以上、(2) 会社・所属機関の導入研修受講修了者又は GCP Basic Training セミナー受講修了者 となっております。

本セミナーを受講していただければ、GCP パスポート認定試験の受験資格を取得できますので、是非、本教育セミナーにご参加ください。本教育セミナーは講義とグループワークの2本立てとし、特に ICH-GCP および倫理を深く理解していただける構成にしております。臨床試験や臨床研究に様々な立場から関わりのある多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 日 程 : 2010年10月30日(土) 9:30~16:30 (開場 8:30)
会 場 : 東京大学医学図書館3階 333 会議室
定 員 : 100 名
参 加 費 : 5,000 円(会員、非会員共)
参加申込 : 日本臨床試験研究会ホームページよりお申し込みください。
<http://www.j-sctr.org/seminar/index.html>

プログラム

講師: 吉田 浩輔(アステラス製薬株式会社)・樽野 弘之(第一三共株式会社)
齋藤 裕子(静岡県立静岡がんセンター 臨床試験支援室)

- 09:30~09:40 オリエンテーション・自己紹介
09:40~11:10 セッション1「倫理・臨床試験概要」
休憩
11:20~12:10 セッション2「品質管理・品質保証」
昼休み
13:10~14:20 セッション3「IRB・責任医師」
14:20~15:30 セッション4「被験者同意・情報提供」
休憩
15:40~15:55 演習問題
15:55~16:20 問題解説
16:20~16:30 Q&A 総括(GCP パスポート範囲解説)



教育セミナー

第2回『GCP Basic Training セミナー』

2010年10月30日(土) 9:30~16:30

東京大学医学図書館

プログラム

講師：樽野弘之（第一三共株式会社）・吉田浩輔（アステラス製薬株式会社）
齋藤裕子（静岡県立静岡がんセンター）

時間	内容	担当講師
09:30~09:40	オリエンテーション	樽野弘之
09:40~11:10	セッション1「倫理・臨床試験概要」	樽野弘之
11:10~11:20	—休憩—	
11:20~12:10	セッション2「品質管理・品質保証」	吉田浩輔
12:10~13:10	—昼休み—	
13:10~14:20	セッション3「IRB・責任医師」	吉田浩輔
14:20~15:30	セッション4「インフォームドコンセント・情報提供」	齋藤裕子
15:30~15:40	—休憩—	
15:40~15:55	演習問題	
15:55~16:20	問題解説・Q&A	齋藤裕子
16:20~16:30	総括(GCPパスポートの内容説明)	樽野弘之

日本小児臨床薬理学会

小児薬物治療・予防の最先端

日時：2010年11月2日(火) 3日(祝)

会場：東京国際フォーラム ホールD5

会長：伊藤真也 (トロント大学/トロント小児病院 臨床薬理学部門 教授)

参加費：会員 10,000円 非会員 12,000円 (事前登録はありません)

演題募集期間：2010年7月1日～31日

プログラム：

➤ シンポジウム

- ✓ 小児の個別化医療
- ✓ ワクチン最前線
- ✓ 妊娠・授乳と薬：最新の知見
(共催：国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター)

➤ プレナリーレクチャー

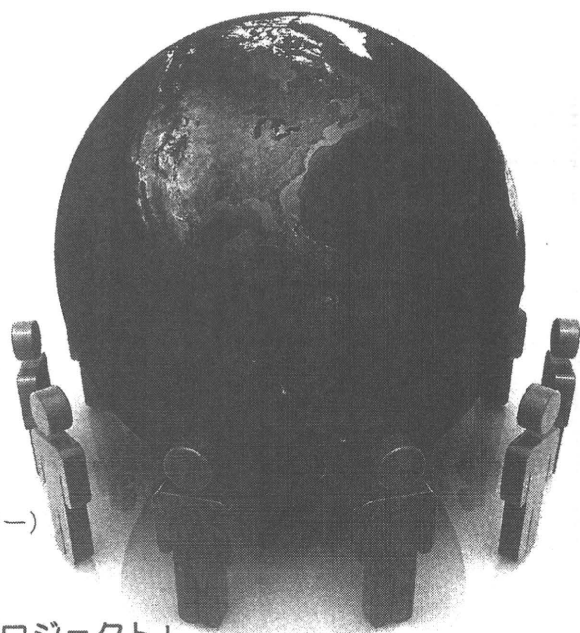
- ✓ 医師主導の新薬開発：「ファイト！ 小児がんプロジェクト」
- ✓ 川崎病：最新の知見
- ✓ 新薬承認までの過程：日本と欧米の比較

➤ 教育セミナー

- ✓ Stevens Johnson Syndrome /Drug Hypersensitivity Syndrome の最新知見
- ✓ Population Pharmacokinetics
- ✓ 診療現場の臨床薬理学

➤ 特別講演

- ✓ “Global prospects of pediatric medicine”
Dr. Stuart MacLeod (British Columbia 大学・小児病院研究所長)



第37回日本小児臨床薬理学会 日程表

	第1日目 11月2日(火)		第2日目 11月3日(祝)
	東京国際フォーラム ホールD5		東京国際フォーラム ホールD5
9:00	開会挨拶 会長 伊藤 真也		
9:30	シンポジウム 1 9:10-10:30 「小児の個別化医療 Personalized Medicine」 座長：中川 雅生、伊藤 真也 演者：高橋 晋一郎		教育セミナー 9:00-10:30 「診療現場の臨床薬理学」 座長：瀧谷 公隆、伊藤 真也 演者：谷川原 祐介 塩原 哲夫 田中 敏博 藤井 久紀
10:00	柳町 昌克 坂口 佐知 井筒 浩		
10:30	休憩		休憩
11:00	一般演題：口演 A 10:40-11:10 座長：角本 幹夫		プレナリーレクチャー 3 10:40-11:20 「新薬承認までの過程：日本と欧米の比較」 演者：小野 俊介、座長：立石 智則
11:30	プレナリーレクチャー 1 11:10-11:50 「World Community Grid: 『ファイト！小児がんプロジェクト』 -余ったコンピューターパワーを利用した小児がん創薬プロジェクト- 演者：中川原 章、座長：牧本 敦		特別講演 11:20-12:00 "Global prospects of pediatric medicine" 演者：Dr. Stuart MacLeod、座長：中村 秀文
12:00	入れ替え		入れ替え
12:30	ランチョンセミナー 1 12:00-13:00 「インフルエンザ、最新の治療戦略」 共催：塩野義製薬株式会社 演者：田中 敏博、座長：伊藤 進		ランチョンセミナー 2 12:10-13:10 「小児リウマチ性疾患におけるサイトカイン遮断薬について」 共催：中外製薬株式会社 演者：森 雅亮、座長：松倉 誠
13:00	入れ替え		入れ替え
13:30	プレナリーレクチャー 2 13:10-14:10 座長：佐地 勉 1. 「ゼロから始まったRCT -川崎病・RAISE Studyでの工夫-」 演者：小林 徹 2. 「川崎病罹患感受性遺伝子の同定」 演者：尾内 善広		総会 13:20-13:40 大西記念小児臨床薬理学会賞受賞記念講演 13:40-14:00 「極低出生体重児（VLBW）への真菌感染症予防投与での ミカファンギンの薬物動態に関する検討」 演者：鈴木 雅美、座長：伊藤 真也
14:00			休憩
14:30	一般演題：口演 B 14:10-14:40 座長：河田 興		シンポジウム 3 14:10-16:10 「妊娠・授乳と薬：最新の知見」 座長：林 昌洋、山元 俊憲 演者：中島 研 村島 温子 林 昌洋 伊藤 直樹 兼子 直 荒田 尚子
15:00	休憩		
15:30	シンポジウム 2 15:00-17:00 「ワクチン最前線」 座長：多屋 馨子、坂田 宏 演者：廣田 良夫 宮崎 千明 石井 健 川村 尚久		閉会挨拶 次期会長 中川 雅生
16:00			
16:30			
17:00	休憩		
17:30	Wine Reception 17:10-		
18:00	Poster Viewing 17:40-		
18:30			

「難病への挑戦—治療薬の期待—」

主 催：財団法人ヒューマンサイエンス振興財団

「難病」は、医学的に明確に定義された病気の名称ではありません。「不治の病」として社会通念で用いられてきた言葉であり、一般的には、治療が難しく、慢性の経過をたどる疾病をいわゆる難病と呼んでいます。厚生労働省では、数百を超える難病の中で「症例数が少なく、原因不明で治療方法が確立しておらず、生活面への長期にわたる支障がある疾患」を対象に、研究班を設置し、臨床実態調査、原因の究明などを目的として難治性疾患克服研究事業(臨床調査研究分野 現在 130 疾患を対象)を行っています。しかし、原因が不明でかつ患者数が少ないため、現在までに十分な創薬あるいは治療薬の開発が行われているとはいえませんでした。ところが近年、欧米で希少疾患(難病)治療薬を開発する多くの製薬企業が出てきました。我が国でも生活習慣病など慢性疾患に対する新薬が承認されにくくなっている中で、難病に対する創薬、治療薬の開発が社会貢献および承認取得のビジネスモデルとして注目を集めてきております。

そこで、本セミナーでは難病の中で、近年我が国で治療薬が承認された、あるいは開発中の特発性肺線維症、多発性硬化症、ライソゾーム病、肺胞蛋白症を取り上げ、臨床(病態、診断、治療)の特徴だけでなく、製薬企業の研究開発のお話も伺います。また、初めの第一部では、厚生労働省から、我が国の難病対策および国内未承認希少疾病医薬品の現状と今後についてお話を伺えることとなりました。今後、製薬企業として難病治療薬の研究開発に着手できる糸口が得られるものと思います。

今回のセミナーでは、国内で難病治療薬の開発することの意義(社会的、企業的)を再確認し、難病治療薬開発への方向性が提示できるものと確信しております。また、今後の難病治療薬の開発の動向をつかむ絶好の機会と考えております。創薬研究者を始め、研究企画、開発や学術関係各位のご参加をいただき、難病治療薬の開発につながるよう、ここにご案内申し上げます。

以上

開催日時： 平成 22 年 11 月 17 日(水) 10:00~17:15 予定

会 場： 全社協・灘尾ホール 東京都千代田区霞ヶ関 3 丁目 3 番 2 号(新霞ヶ関ビル LB 階)

プログラム (案)

「難病への挑戦—治療薬の期待—」

時間	演題	講師 (敬称略)
【第1部】 (総合司会：味の素製薬株式会社 村田 正弘)		
10:00～10:30	我が国の難病対策—難治性疾患克服研究事業を中心として—	厚生労働省健康局疾病対策課 課長補佐 中田 勝己
10:30～11:00	国内未承認の希少疾病医薬品の現状 (治験・承認状況など) と今後	厚生労働省医薬食品局審査管理課 課長補佐 中山 智紀
【第2部】 (総合司会：味の素製薬株式会社 村田 正弘 アステラス製薬株式会社 前田 典昭)		
11:00～11:45	ライソゾーム病：治療法の最近の進歩	東京慈恵会医科大学遺伝病研究講座 教授 衛藤 義勝
11:45～12:10	ライソゾーム病治療薬開発の現状と課題	日本ケミカルリサーチ株式会社研究本部 取締役・研究本部長 西野 勝哉
12:10～12:55	肺胞蛋白症：発症メカニズムとGM-CSF吸入療法	新潟大学医歯学総合病院生命科学医療センター センター長・教授 中田 光
12:55～14:00	昼 休 み	
【第3部】 (総合司会：アステラス製薬株式会社 前田 典昭 田辺三菱製薬株式会社 斉藤 亜紀良)		
14:00～14:45	多発性硬化症：臨床・基礎研究の進歩と治療薬の期待	国立精神・神経医療研究センター神経研究所 免疫研究部 部長 山村 隆
14:45～15:10	多発性硬化症に対するスフィンゴシン1-リン酸受容体調節薬、フィンゴリモド(FTY720)の研究開発	田辺三菱製薬株式会社研究本部 薬理第一研究所 所長 千葉 健治
15:10～15:30	コーヒープレーク	
15:30～16:15	特発性肺線維症：新規薬剤臨床試験—疾患特性に基づく登録患者選択と評価項目選択—	東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 呼吸器病態学分野 教授 貫和 敏博
16:15～16:50	特発性肺線維症の最近の臨床試験成績	日本医科大学内科学講座 呼吸器・感染・腫瘍部門 教授 吾妻 安良大
16:50～17:15	特発性肺線維症に対するピルフェニドン開発の経緯	塩野義製薬株式会社 感染症薬適正使用推進室 ピレスパ担当 奥 久司

総合司会：ヒューマンサイエンス振興財団 研修委員会難病セミナーキンググループ

The 4th TeamOncology Workshop
“Creating an Oncology Program Through Multidisciplinary Care”

- PROGRAM (Tentative)-

(As of October 06, 2010)

Length	Begin	End				
DAY 1				2010/11/19		
0:30	9:00	9:30	rescott/Shimiz	Introduction to the J-TOP WS		
2:15	9:30	11:45	Apted	Leadership and Communication		
0:30	11:45	12:15	Apted	Key Learning		
0:45	12:15	13:00	Lunch Ueno (Overview of Workshop and introduce program themes- 15 min)			
0:50	13:00	13:50	Shimizu	“What is an Oncology Program?”		
0:10	13:50	14:00	Move/Break			
1:10	14:00	15:10	Group Work 1: Four Simultaneous Sessions (Teams A,B,C,D: 5-MD, 5-Pharm, 5-RN per Team)			
			Leadership/ Communication	Forming an Effective Team and Expanded Roles	Mission/Vision	Statistics/EBM
			Theriahult / Apted / Sato / Szewczyk / Patel / Taguchi (Float: Ueno)	Feig / Neumann / Ihara / Tipton (Float: Ueno)	Mansfield / Prescott / Saji / Izawa (Float: Ueno)	Liao / Shimizu / Ueda / Shen (Float: Ueno)
			Team A	Team B	Team C	Team D
0:10	15:10	15:20	Transfer Rooms			
1:10	15:20	16:30	Team D	Team A	Team B	Team C
0:10	16:30	16:40	Transfer Rooms			
1:10	16:40	17:50	Team C	Team D	Team A	Team B
0:10	17:50	18:00	Transfer Rooms			
1:10	18:00	19:10	Team B	Team C	Team D	Team A
0:20	19:10	19:30	Move/Break			
	19:30		Dinner and Naming of the Teams			
	22:00		DAY 1 Program Ends			

DAY 2				2010/11/20		
0:10	8:00 -8:10	8:20	Prescott	Introduction		
1:00	8:20	9:20	Mentors	Key Learning: What is an Oncology Program?		
0:10	9:20	9:30	Move/Break			
3:00	9:30	12:30	Group Work 2 (Teams A,B,C,D: 5-MD, 5-Pharm, 5-RN per Team) How to Effectively Implement an Oncology Program which Includes EBM and Clinical Trials for the Patient's Benefit			
			Team A Mentors: Theriault (MD), Neumann (RN), Tipton (Pharm), Sato (Pharm)	Team B Mentors: Feig (MD), Neumann (RN), Tipton (Pharm), lihara (Pharm)	Team C Mentors: Mansfield (MD), Saji (MD), Patel (Pharm), Izawa (RN), Szewczyk (RN)	Team D Mentors: Liao (MD), Ueda (Pharm), Szewczyk (RN), Patel (Pharm)
			(Float: Ueno, Prescott, Apted, Shen, Tutors, Statisticians)			
0:45	12:30	13:15	LUNCH (Presentation on the Experience of JME 2010 - 20min)			
0:15	13:15	13:30	Move/Break			
1:30 - End	13:30		Group Work 2 continued How to Effectively Implement an Oncology Program which Includes EBM and Clinical Trials for the Patient's Benefit			
			Team A Mentors: Theriault (MD), Neumann (RN), Tipton (Pharm), Sato (Pharm),	Team B Mentors: Feig (MD), Neumann (RN), Tipton (Pharm), lihara (Pharm)	Team C Mentors: Mansfield (MD), Saji (MD), Patel (Pharm), Izawa (RN), Szewczyk (RN)	Team D Mentors: Liao (MD), Ueda (Pharm), Szewczyk (RN), Patel (Pharm)
			(Float: Ueno, Prescott, Apted, Shen, Tutors, Statisticians)			
22:00				Room Close - DAY 2 Program Ends		

DAY 3				2010/11/21
1:00	8:00	9:00	How to Effectively Implement an Oncology Program which Includes EBM and Clinical Trials for the Patient's Benefit (PPT Finish Work + Briefing for Interpreters)	
			Team A	Team B
			Team C	Team D
0:20	9:00	9:20	Move	
2:40	9:20	12:00	Presentations (4 groups) - 20 minutes presentation + 20 minutes discussion each	
0:10	12:00	12:10	Wrap Up	
0:40	12:10	12:50	Lunch	
1:25	12:50	14:15	Panel Discussion	
0:45	14:15	15:00	Closing Remarks	
15:00				All Program Ends

治験事務局セミナー2011
 日病薬主催の治験事務局担当者セミナー（10・11回目）
 改正GCPと改正倫理指針が施行されて
 “治験事務局と臨床研究事務局”の実際
 ひとりで問題に悩んでいませんか？

【東京】

開催日時 2010年11月20日（土） 午前9時50分～午後5時
 会場 T K P代々木ビジネスセンター 1号館2Fホール12A 東京都渋谷区代々木1-28-25
 （JR「代々木」駅西口より徒歩約1分、都営大江戸線「代々木」駅A1出口より徒歩約30秒）

【福岡】

開催日時 2011年1月15日（土） 午前9時50分～午後5時
 会場 パピヨン24ガスホール 福岡県福岡市博多区千代1-17-1・3F
 （地下鉄箱崎線「千代県庁口」駅4番出口直結）

対象 治験または臨床研究等の事務局担当者（事務職員の方でもSMOの方でもOK）
 経験年数は問いませんが、最低限、基礎の基礎ぐらいは知っている方が対象です
 参加費 日本病院薬剤師会会員10,500円（税込）、非会員15,750円（税込）
 申込方法 本会ホームページ <http://www.ishp.or.jp> より、手順に従ってお申し込み下さい。
 申込締切 【東京】2010年10月15日（金） 【福岡】2010年11月26日（金）
但し、定員（190名）になり次第締め切らせていただきます

【企画の背景とお知らせ】 ← 必ずお読みください

日病薬臨床試験対策委員会主催の治験事務局担当者セミナーもすでに9回を数え、記念すべき第10回を迎えることができました。これまで追加のセミナーを開催するなど、非常に多くの方々を受講いただきました。さて、2008年の5・6・7回のセミナーでは、平成20年2月の「改正GCP」に伴う治験事務局の対応、そして昨年度の8・9回の本セミナーでは、平成20年7月に「臨床研究に関する倫理指針」が改正され、治験事務局がまさに臨床研究に関与せざるを得ない現況を踏まえたテーマといたしました。今回は、改正GCPと改正倫理指針が施行された現況での医療機関における“臨床研究事務局と治験事務局”の実際の取組みについて、それらに対応すべく経験豊富な講師が、しっかりとご教授いたします。受講募集人数に限りがありますので、**1施設2名を限度**で受け付けることにいたします。なお、講義に際して「補遺版 治験事務局担当者のためのガイドブック」（メディカ出版）を事前にお読みいただくことをお勧めいたします。
 なお、プログラムの詳細（講師など）は、決まり次第随時ホームページを更新させていただきます。

————— プログラム（案） —————

9:50 開会のあいさつ

10:00 - 12:00

* 知られざる通知	国際医療福祉大学 大西 純一
* 第三者を介した治験薬交付の実際	日本大学板橋病院 榎本 有希子
* 安全性情報等の取扱い	聖マリアンナ医科大学病院 寺田 淳
* 議事録概要の公開	虎の門病院 山崎 三佐子
* 臨床研究に取組む治験事務局の一例	

12:00 - 13:00 昼食と名刺交換

13:00 - 14:50

* 倫理指針委員会の実際	近畿大学病院 野村 守弘
* 臨床研究情報の登録・公開の実際	
* 臨床研究における利益相反（Conflict of Interest: COI）の実際	
* 補償保険	
* 個人情報保護 など	

14:50 - 15:00 休憩

15:00 - 16:00

* TOPIC 「事前ヒアリング」	座長 町田市民病院 井草 千鶴
製薬協の立場から	製薬協
医療機関の立場から	信州大学病院 寺元 剛

16:00 - 16:55 全体討論 金沢大学病院 古川 裕之

16:55 閉会のあいさつ

主催：日本病院薬剤師会 臨床試験対策委員会
 お問い合わせ先：

主催	日本病院薬剤師会
日時	平成22年11月20日(土) 午前9時50分～午後5時
会場	TKP代々木ビジネスセンター1号館2Fホール12A 地図 〒150-0002 東京都渋谷区代々木1-28-25 (JR「代々木」駅西口より徒歩1分、都営大江戸線「代々木」駅A1出口より徒歩約30秒)
対象	治験または、臨床研究等の事務局担当者(事務職員の方でも、SMOの方でもOK) 経験年数は問いませんが、最低限基礎の基礎くらいは知っている方が対象です。
定員	190名
受講料	日本病院薬剤師会会員10,500円(税込)、非会員15,750円(税込)
申込締切	平成22年10月15日(金) 但し、定員になり次第締め切らせていただきます。

プログラム

[プログラムはこちらをクリックして下さい](#)

お申込の手順

新規参加登録はこちら

1. 上記「新規参加登録」ボタンをクリックします。
2. 参加申込フォームが開きますので、お申込内容を入力し、「登録確認画面へ」ボタンをクリックします。
3. 登録内容確認画面が表示され、内容に誤りがないか確認の上「この内容で登録する」ボタンをクリックします。
4. 申込受付メール(受講票)が登録アドレスに自動的に送付されます。
(30分以内に申込受付メールが届かない場合には、[受付システム担当宛](#)ご連絡ください。)
5. 受講者は、2010年10月15日(金)までに、ゆうちょ銀行備え付けの払込取扱票をご使用いただき、指定の口座へ参加費をお振り込みください。
6. 研修会当日は、4の参加申込受付メール(受講票)をプリントアウトして受付に提出して下さい。

注意事項

1. 参加費の振り込み手数料はご負担ください。
2. ご入金の確認を持って参加登録完了とさせていただきます。
3. キャンセルされる場合は、必ず下記問い合わせ先までご連絡下さい。

お問い合わせ先

日本病院薬剤師会 広報・企画課
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 日本薬学会長井記念館8階

SAS® 認定プロフェッショナル SAS Base Programmer for SAS®9 ポイント解説講座 (1日間)

概要

本コースは、SAS Base Programming for SAS 9で必要な大部分のトピックの復習を行います。
また、本コースには受験チケット(バウチャー; 18,900円(税込)相当)が含まれます。

受講対象

SASグローバル認定プログラムの一部である、SAS Base Programming for SAS 9を受験前に復習をご希望される方

前提知識

下記2コースを受講済みか、同程度の知識のある方

- ・「SASプログラミング1:必須要素」
- ・「SASプログラミング2:データ加工テクニック」

さらに、以下5つの試験範囲の知識を持つプログラマー

- ・データアクセス
- ・データ構造の作成
- ・データ管理
- ・レポートの作成
- ・エラーハンドリング

学習内容

- ・SASデータセットの読み込み、作成、組み合わせ
- ・生データファイルの読み込み、作成
- ・割り当てステートメントや条件処理による変数の作成
- ・SAS関数を使用したデータ加工
- ・DOループと配列を使用したデータ処理
- ・PRINT、FREQ、MEANSプロシジャを使用した、様々な種類のレポートの作成
- ・FORMATプロシジャを使用した出力形式の作成
- ・ODSを使用したHTMLレポートの作成

コンテンツ

- イントロダクション
 - ・SAS Base Programming for SAS 9について
 - ・コースの復習について
 - ・SASの基本概念
- SASデータセットでの作業
 - ・データセットの読み込みと作成
 - ・オブザベーションの選択
 - ・SORTプロシジャを使用したオブザベーションの並べ替え

- ・データセットの結合
- 生データファイルとMicrosoft Excelファイルでの作業
 - ・生データファイルの読み込み
 - ・レコード書き込み時の制御
 - ・Microsoft Excelファイルの読み込み
- 変数の作成
 - ・割り当てステートメントを使用した変数の作成
 - ・条件的な変数の作成
 - ・累積変数の作成
- データ加工
 - ・関数を使用したデータ加工
 - ・文字データと数値データの変換
 - ・DOループを使用したデータ処理
 - ・配列を使用したデータ処理
- レポートの生成
 - ・PRINTプロシジャを使用した詳細レポートの作成
 - ・FORMATプロシジャを使用した出力形式の作成
 - ・FREQプロシジャを使用した度数分布表の作成
 - ・MEANSプロシジャを使用した要約レポートの作成
 - ・ODSを使用した外部ファイルへのレポートの出力
- 模擬試験
 - ・SASの基本的な概要
 - ・SASデータセットでの作業
 - ・生データとMicrosoft Excelファイルでの作業
 - ・変数の作成
 - ・データ加工
 - ・レポートの生成

対象プロダクト

Base SAS[®]、SAS/GRAPH、SAS/ACCESS[®] to PC Files



研究者主導臨床試験(臨床研究)支援シリーズセミナー 臨床試験のデザイン —臨床試験デザインの実践的な知識を得る—

(JSCTR-ESN.11-01)

講義で臨床試験の基本的な用語、臨床試験デザインについて学び、その知識を具体的に活用するための演習を行います。

対象：これから臨床試験に本格的に取り組みたい研究者
 研究デザインについて実践的知識を持ちたいと考えている研究者
 臨床試験の企画に関わる研究者・研究支援者

日 程： 2011年1月10日(月(祝)) 10:00~17:15 (開場 9:30)
会 場： 東京大学医学部教育研究棟 13階 第6セミナー室
定 員： 40名
参加費： 会員 8,000円 非会員 15,000円 (昼食代込み)

プログラム

時間	内容	講師
10:00~11:00	講義:臨床試験デザイン概論 ランダム化比較試験とは何か、試験実施計画書に書くべきこと、研究組織の必要性、なぜ試験登録が必要かなど	大橋 靖雄
11:00~12:00	講義:事例から学ぶ臨床試験デザインの基礎知識(仮) 基本的な用語、具体的な臨床試験デザインの解説など	森田 智視
12:00~12:40	昼休み	
12:40~13:00	演習:グループディスカッションの題材の背景に関する説明	藤田 烈 宮川 信明
13:00~15:30	演習:グループディスカッション ・空気清浄機に関する臨床試験を立案する ・骨粗鬆症治療薬の比較試験における評価方法を検討する	大橋 靖雄 森田 智視 飯室 聡 田中 司朗 藤田 烈 宮川 信明 斉藤 真梨
15:45~17:15	各グループ発表、講師講評	大橋 靖雄 森田 智視

お問い合わせ 一般社団法人日本臨床試験研究会 事務局

開催の詳細は内閣府 経済社会総合研究所ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.esri.go.jp/jp/prj-si2010/symposium20110223.html>

国際シンポジウム 「真に必要な医療・医薬品を享受するためにーサービス・イノベーションの挑戦ー」

開催案内	
日程	2011年2月23日(水) 10:00~17:00
場所	日本科学未来館7階 みらいCAN ホール
定員	250名(先着順)
参加費	無料(事前登録制)

プログラム

2011年2月23日(水) 10:00-17:00

時間	プログラム	講演者(敬称略)
9:30	開場	
10:00-10:10	開会	内閣府 経済社会総合研究所
10:10-10:40	基調講演 「ライフ・イノベーションとわが国の課題」	井村 裕夫 財団法人先端医療振興財団 理事長
10:40-11:10	特別講演 “Innovative Paradigms for Drug Development: maximizing the role of industry, regulatory authorities and health technology assessment” 「医薬産業とイノベーション評価:産業界、規制当局、そしてHTAの役割」	Lawrence Liberti 国際レギュラトリーサイエンス機構 理事長
11:10-11:40	特別講演 「米国AHRQの取組み」(調整中)	Agency for Healthcare Research and Quality
11:40-11:50	質疑応答	
11:50-13:00	昼食休憩	
13:00-13:20	講演Ⅰ 「わが国における「技術革新」成長因子“IND”の欠乏と病識:立法や行政に期待される役割とそのための条件」	黒川 達夫 千葉大学薬学研究院 客員教授
13:20-14:20	研究発表 「医薬品行政、制度、経済と「公的サービス」研究会における取組み」	川上 浩司 京都大学大学院医学研究科 教授
14:20-14:40	休憩	
14:40-15:00	講演Ⅱ 「社会イノベーションの成立条件:日本社会に課せられた課題」	末松 千尋 京都大学経営管理大学院 教授
15:00-16:50	パネルディスカッション 「真に必要な医療・医薬品を享受するために」 1. 指定発言:医薬品の技術革新と我が国の医療保険制度 吉田 易範 厚生労働省 保険局医療課 薬剤管理官 2. 指定発言:製薬企業のHTAへの取組み 加藤 益弘 アストラゼネカ株式会社 代表取締役会長兼社長 3. 総合討論	司会: 川上 浩司 京都大学大学院医学研究科 教授 パネラー: Lawrence Liberti 国際レギュラトリーサイエンス機構 理事長 福原 俊一 京都大学大学院医学研究科 教授 黒川 達夫 千葉大学薬学研究院 客員教授 末松 千尋 京都大学経営管理大学院 教授 八山 幸司 内閣官房 医療イノベーション推進室 企画官 吉田 易範 厚生労働省 保険局医療課 薬剤管理官 加藤 益弘 アストラゼネカ株式会社 代表取締役会長兼社長 大西 昭郎 日本メドトロニック株式会社 取締役副社長
16:50-17:00	閉会	青山 伸 内閣府 経済社会総合研究所 総括政策研究官

